

## イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の高い状況が続いています！ 水田でのヒメトビウンカの防除を徹底しましょう

令和3年5月25日付け病害虫発生予察注意報第1号において、媒介虫であるヒメトビウンカの小麦での発生量が多いこと、水田での防除適期が早まる見込みであることを発表しました。今回は、ヒメトビウンカ第一世代幼虫についてのイネ縞葉枯ウイルス（以下、RSV）保毒虫率を調査しましたので、お知らせします。

[現在の状況]

- ① 本年5月中下旬に県西地域、県南地域の小麦圃場から採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫のRSV保毒虫率は、県西地域の9地点中8地点および県南地域の3地点中2地点で5%以上の高い値となった（表1）。

表1 小麦圃場におけるヒメトビウンカ第一世代幼虫のRSV保毒虫率

地域	調査地点	RSV保毒虫率（%） <sup>1)</sup>					
		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	本年 <sup>2)</sup>	
県西	古河市 水海	— <sup>3)</sup>	6.4	—	—	<b>3.7</b>	
	結城市 結城	9.6	11.7	10.6	11.7	<b>6.3</b>	
	下妻市 高道祖	17.6	9.6	6.4	11.7	<b>5.9</b>	
	常総市 三坂町	16.4	6.4	5.3	9.0	<b>5.9</b>	
	筑西市 二木成	18.1	20.2	9.6	10.1	<b>9.0</b>	
	坂東市 神田山新田	—	—	—	—	<b>5.3</b>	
	桜川市	加茂部	6.4	2.1	2.7	7.4	<b>5.3</b>
		原方	13.5	6.4	10.1	3.7	<b>7.4</b>
	八千代町 高崎	—	14.9	10.1	14.4	<b>8.5</b>	
県南	つくば市	大形	14.4	8.5	6.4	5.3	<b>5.9</b>
		泉	—	—	—	10.1	<b>4.3</b>
	つくばみらい市 市野深	9.0	5.3	6.4	5.3	<b>6.9</b>	

1)簡易ELISA法により検定した。

2)採集日：令和3年5月17、18、20、25日、検定実施日：5月31日、  
サンプル数：各地点188頭、但し、結城市結城は142頭

3) —：未調査

### [防除対策]

- ① イネ縞葉枯病の被害が問題となる地域で、近年育苗箱施用剤を使用してもなお本病の発生が多かった水田や、本年育苗箱施用剤を使用しなかった水田等では、ヒメトビウンカを対象とした本田防除を行う。
- ② 無人ヘリコプターや乗用管理機等による本田散布を行うことができない水田では、投げ込み型殺虫剤による本田防除を行う。
- ③ 育苗箱施用と本田散布の体系防除を行う場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤を選択する。
- ④ イネ縞葉枯病抵抗性品種を作付けした水田であっても、ヒメトビウンカの増殖場所となるため、本病の多発生地域では防除を行う。
- ⑤ 薬剤および防除適期については、病害虫発生予察注意報第1号（令和3年5月25日発表）を参照とする。